

平成 30 年度事業報告書

I. 平成 30 年度日本バングラデシュ協会事業報告書

1. 平成 30 年度は発足後 5 年目に当たり、執行部は前年度に引き続き日バ両国の友好親善、相互理解の増進を目標として、協会の基盤整備、協会の活動の充実とともに認知度の向上に努めた。本協会はまた、発展を続けるバングラデシュの諸分野の紹介及び啓発のため、平成 30 年度において 6 回の講演会、4 回の企業情報交換会を行い、また、毎月 1 回メール・マガジンを発行しており、その実績は添付資料一の一覧表のとおりである。

2. 本協会の会員数は、平成 30 年度末で個人会員 136 名(うち学生会員 13 名)、法人会員 39 社(うち非営利法人会員 3 社)となった。前年比で見ると個人会員は 6 名減となっているが、その理由はバングラデシュ関係のポストから離れたことなどの理由の他、講演会などの行事に参加できない地方会員の中で退会者があったためである。地方会員の退会者を食い止め、さらにその増員を図るべく、メルマガに『会員便り』を設け、特に地方会員の投稿を推奨するなどの措置を講じている。

他方、法人会員は 9 社の増加があった。これは 3 年前法人会員増加のため、本協会会員である先行企業の代表から、新たにバングラデシュに進出を検討している、或いは進出したばかりの企業に対し、現地で遭遇し、或いは遭遇するであろう諸問題について関連経験ないし情報を提供するために設立された「企業情報交換会」の有用性に対する評判の高さが大きく貢献しており、年 4 回の同 情報交換会の開催準備に多大の貢献をされている丸久株式会社の平石理事にこの場を借りてお礼申し上げたい。

3. なお、2016 年 7 月 1 日のダッカ・テロ事件の後、外務省の渡航者情報におけるバングラデシュの危険度が 2 に引き上げられ、日バ間を往復する関係者にとり大きな障害となっている。この企業情報交換会においては、外務省テロ対策室のバングラデシュ担当官から、治安状況について毎回報告があり、企業会員の高い評価を受けている。他方、この情報交換会における参加企業側からの諸情報は、外務省にとっても貴重な情報源になっている由であり、官民協力の一つのモデルになっていることをご紹介したい。
4. 今後、個人会員及び企業会員をさらに増やしていくためには、本協会が会員或いは潜在的会員に対する有用性を高めることが重要であり、そのためには外部からの

バングラデシュに関する照会などに敏速に応え得るような体制を整えることが不可欠であり、早急に実現すべく引き続き取り組んでいきたい。

5. 3年前より活動を開始した月例の「事務執行定例会」は合計 11 回開催され、協会運営の迅速化に大いに寄与している
6. 昨年の総会で報告した賛助会員制度については、部内の諸調整に時間を要したが、本年度に入りバングラデシュ人の賛助会員としての入会勧誘が開始され、既に個人賛助会員 6 名、法人賛助会員 2 社の入会を得ており、来年度以降も引き続き働きかけていきたい。

会員の皆様におかれてもこれと思われるバングラデシュ人の知り合いがいたら、賛助会員としての入会を勧めていただきたい。

7. 理事会は、2 回の臨時理事会を含め計 6 回開催され、協会運営に係わる諸事項について各担当理事を定めて管掌し、理事の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保しつつ、その他一般社団法人の業務の適正を確保するための体制、その他一般社団法人の業務の適正を確保すべく務めた。
8. 平成 30 年度の決算については別途報告するが、収入 244 万円に対し支出は 152 万円で、92 万円の繰り越しを行った。

協会を財務的に見れば協会設立以来先期末までの総収入額は 1,045 万円、うち年会費収入は 882 万円、事業費収入は 17 万円、寄付金等 146 万円となっている。その間の支出は人件費 220 万円を含む管理費合計 408 万円、事業費 187 万円で、経費の総計は 595 万円であり、残高の協会資産は 450 万円となっている。

平成 30 年度の協会行事の一覧表を添付資料－1 に示す。

日本 Bangladesh 協会 平成 30 年度事業一覧表

2019 年 3 月 31 日

1. 講演会等協会事業

2018 年

- (1) 4 月 13 日 泉 裕泰 「Bangladesh 情勢 ～ベンガル湾と中国」
駐 Bangladesh 日本国大使
- (2) 7 月 6 日 堀口松城 会長 「Bangladesh と私ー『Bangladesh の歴史』
執筆の動機と背景
- (3) 7 月 7 日 「Bangladesh 展示会」 「三田いきいきまつり」に参加
- (4) 9 月 28 日 中島 敏 「Bangladesh に学んだこと」
前海上保安庁長官
- (5) 11 月 29 日 三宅 保次郎 「経済産業省の Bangladesh に関する取組」
経済産業省 通商政策局・南アジア室長

2019 年

- (6) 1 月 29 日 吉武 将吾 「最近の Bangladesh 情勢」
外務省 アジア大洋州局・南西アジア課長

企業情報交換会：

2018 年

- (1) 6 月 13 日 第 8 回企業情報交換会 「各社が抱える近況の議題・定例情報交換会」
会場：渋谷勤労福祉会館
- (2) 9 月 19 日 第 9 回企業情報交換会 「Bangladesh の現状に関する情報交換会」
会場：三田いきいきプラザ
- (3) 12 月 13 日 第 10 回企業情報交換会/JETRO 共催 「Bangladesh の現状」
会場：Bangladesh 大使館 ホール

2019 年

- (4) 3 月 13 日 第 11 回企業情報交換会 「Bangladesh の現状に関する議題・情報交換会」
会場：渋谷勤労福祉会館

2. メール・マガジンの発行

2018 年

- 第 45 号 (4 月号) 「国連による Bangladesh の「最貧国」卒業の認定と今後の方策」
「Bangladesh の国境を尋ねて」 理事：村山真弓
「現地だより『Bangladesh B2C』」
ロート製薬 ロート Bangladesh 社 取締役社長 新井謙
「ジナイダ県：地下水灌漑に過度に依存しない持続可能な農業実践
現場レポート」 会員：(特活)アジア砒素ネットワーク 石山民子
- 第 46 号 (5 月号) 「第 5 回社員総会、懇親会へのお誘い」
「Bangladesh：最貧国から途上国へ」：デイリー・スター紙報道
「ジュマネットを通じて考えるロヒンギャ難民問題」 日下部尚徳
「現地だより『生命を守る人の環境を創る』」 法人会員：小林 宏行

第 56 号 (3 月号)

「早川崇は何故、バングラデシュの早期承認を熱心に働きかけたのか？」
(連載) 第 2 回 監事早川鎮、理事太田清和
「在日本バングラデシュ婦人協会主催第 2 回バザーの開催」
「日本発の民間企業の WFP との事業連携—ロヒンギャ難民とコックスバザール
周辺のバングラデシュ農家の支援」グラミンユーグレナ 佐竹右行
「バングラに学校建設 30 年、卒業生は数千人に；丹波新聞
「地方から見たバングラデシュの思い出」(連載その 2) 監事 伊藤隆史
「早川崇は何故、バングラデシュに心血を注いだのか？」(連載) 第 3 回
監事早川鎮、理事太田清和

3. 日本バングラデシュ協会平成 30 年度会議一覧表

I 社員総会

1 第 5 回社員総会・懇親会 平成 30 年 5 月 26 日 品川カンファレンスセンター

II 第 5 期 理事会

1 第 1 回理事会 平成 30 年 4 月 21 日 三田いきいきプラザ C 室
2 第 1 回臨時理事会 平成 30 年 5 月 26 日 品川カンファレンスセンター
3 第 2 回理事会 平成 30 年 7 月 18 日 三田いきいきプラザ C 室
4 第 3 回理事会 平成 30 年 10 月 17 日 虎ノ門いきいきプラザ多目的室
5 第 4 回理事会 平成 31 年 1 月 18 日 三田いきいきプラザ B 室
6 第 2 回臨時理事会 平成 31 年 3 月 24 日 電磁的持ち回り

III 第 5 期 事務執行定例会議

1 第 1 回事務執行定例会議 平成 30 年 4 月 10 日 三田いきいきプラザ
2 第 3 回事務執行定例会議 平成 30 年 5 月 17 日 三田いきいきプラザ
3 第 3 回事務執行定例会議 平成 30 年 6 月 20 日 虎ノ門いきいきプラザ多目的室
4 第 4 回事務執行定例会議 平成 30 年 7 月 11 日 神明いきいきプラザ C 室
5 第 5 回事務執行定例会議 平成 30 年 8 月 21 日 三田いきいきプラザ 敬老室
6 第 6 回事務執行定例会議 平成 30 年 9 月 19 日 三田いきいきプラザ 敬老室
7 第 7 回事務執行定例会議 平成 30 年 10 月 10 日 渋谷カフェミヤマ 3 号室
8 第 8 回事務執行定例会議 平成 30 年 11 月 14 日 渋谷カフェミヤマ 3 号室
9 第 9 回事務執行定例会議 平成 30 年 12 月 18 日 虎ノ門いきいきプラザ多目的室
10 第 10 回事務執行定例会議 平成 31 年 2 月 15 日 渋谷カフェミヤマ 2 号室
11 第 11 回事務執行定例会議 平成 31 年 3 月 13 日 渋谷カフェミヤマ 2 号室